

カラダとアタマの健康をサポート

【田中ケアサービス株式会社】

マニアルなき時代から模索し
独自のサービスを確立

建設会社が全く異業種の介護ビジネスに参入し新会社を設立した。業界の先駆けともいえる田中ケアサービス株式会社だ。訪問入浴室1台からスタートした1999年当時、建設業界は環境破壊や統合などが問題視され「何をしても褒められない産業になりつつあった」と田中正孝社長は振り返る。「何か新たな社会貢献できる」とがないかと模索していた折に、国会で介護保険法案が通過し、



有酸素運動に認知トレーニング(しりとりや計算などの課題)を同時に行うことで、体と頭の機能向上を図る「コグニバイク」。



これだけとひらめいた」

利用者がすぐに民間事業者に飛びつくわけはなく、当初は用意したヘルパー数の10分の1も仕事があつたが、サービスの質を上げることで次第に利用者を増やしていった。「長年、ホテルやキャバレー、ダンスの接遇マナーを指導された方が滋賀県におられたので、その方に1年間現場に入ってもらった。介護の現場の接遇とはなんだろうと二人三脚で探究していった」。どこにもマニュアルがない時代。デイスカッジを重ね、独自の接遇の基本を作り上げ、訪問入浴から始まったサービスは、食事や介護、訪問看護、デイサービス、ショートステイと、利用者のニーズの高まりに合わせて広がっていった。

ケア事業だけにとどまらず 予防と早期発見に取り組む

昨年、厚生労働省が都道府県別の平均寿命を発表し、男性の平均寿命が日本一になった滋賀県。一歩進んで健康寿命を意識し、同社が注力するのは認知症予防事業だ。昨年9月、長浜駅



前の「えきまちテラス長浜」に新しい形のフィットネスジム「ブレインフィットネスORANGE」をオープンした。認知症や生活習慣病を予防するため、楽しみながら認知機能のトレーニングやチカラを鍛えるデュアルタスク(二重課題)方式のトレーニングマシン「コグニバイク」を導入した。このマシンは国立長寿医療研究センターとインテリハの共同開発で生まれたもので、有酸素運動をしながら脳を使うことが認知症の効果的な予防や早期発見につながるという。

熱い信念に基づき 目指すは健康寿命日本一

介護はサービス精神だ、という熱い信念を持って介護事業に参入した同社だったが、元は建設業から派生した会社ということで、周囲には建設業者に介護の何が

できるのかという空気が満ちた。そんな中、社会福祉法人「達真会」を2000年に設立し、特別養護老人ホームを作ったことが同社にとって大きなブレイクスルーポイントになった。「こちらの本気が、行政にも伝わったのか、一気に連携がスムーズになった。これからは地域の行政と共に、末端にまで血が通うような、健康寿命を延ばすための取り組みを県内全域、そして全国にも広げたい。それが夢。たまたま平均寿命が1位というのはなく、みんなの努力と自治体の努力で健康寿命でもトップになりたい」とさらなる飛躍を誓った。

DATA

田中ケアサービス株式会社

1999年創業。長浜市に本社を構え、居宅介護支援事業(ケアマネジメント)や在宅介護サービス、障害者自立支援法に基づく事業などを滋賀県全域で展開。昨年9月に「ブレインフィットネスORANGE」をオープン。認知症予防にも積極的に取り組んでいる。



代表取締役社長 田中正孝
滋賀県長浜市北園町278-5
TEL.0749-68-2031
http://tanakacare.co.jp/